

令和7年度 調布市立飛田給小学校 学校評価報告書（学校長 松田 隆）

学校の教育目標

- 心ゆたかなたくましい子ども
- ・じょうぶな体
 - ・思いやりの心
 - ・考える力（令和7年度の重点）
 - ・やりぬく力

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

- 児童が毎日通いたくなる学校
- 保護者が安心して通わせることのできる学校
- 地域の誇りとなる学校
- 教職員が職務にやりがいを感じ、互いに資質を高め合うことができる学校

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)			
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①挨拶の励行		①3年生以上教科担任制の実施		①全校で取り組む休み時間外遊びの励行	
	②保護者、地域住民が参加しやすい行事運営		②タブレットの効果的な活用		②アスリート派遣事業を活用した授業体験	
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
学校運営協議会評価	①目標には届かなかった。向上は見られ、半数は越えるようになった。	B	①計画どおり実施した。1年生で試行実施した。	B	①9割以上の児童が外遊びを楽しんだ。	B
	②土曜日実施の行事については目標を達成した。	B	②推進校の取組を通して、授業での活用が大きく進んだ。	A	②計画どおり実施した。	B
	・児童の挨拶の状況が少しずつではあるが年々よくなっている。さらに取組を進めてほしい。		・教科担任制、タブレット活用のどちらも、子どもも、教職員も、当事者たちが効果を感じているのはとてもよい。さらに活用を進めてほしい。		・近隣にスポーツ施設の多い地域の特色を生かして、運動好きな子どもを育ててほしい。様々なスポーツを体験する機会を設けてほしい。	
	・1年間を通して学校行事を参観すると、子どもたちの成長がよく分かる。どの行事にも一生懸命取り組んでおり、素晴らしい。		・タブレットの活用は大事だが、使い方の指導、モラル教育も重視してほしい。		・パラスポーツを通して障害者理解を深めることは本校の特色である。ぜひ続けてほしい。	

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 特別支援教育の充実	5 安全・安心な学校づくり	6 働き方改革の推進			
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	①個別指導計画、支援計画の作成による個に応じた支援		①「ステップルーム」運営の充実		①「すぐーる」活用によるペーパーレス化	
	②巡回校の管理職との情報共有		②健全育成連絡会参加による連携・情報共有		②休暇取得の促進	
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
学校運営協議会評価	①必要な児童について全て作成した。	A	①太陽の子、フリースクールなどをめると、登校0の児童はいなかった。	B	①「すぐーる」による文書配布への移行が円滑に進んだ。	A
	②校長会、電話連絡などで計画どおり行った。	B	②計画どおり参加し、学校からも情報を発信した。	B	②おおむね達成したが、全員ではない。勤務状況を把握し、配慮する。	B
	・小規模校ならではの行き届いた支援を前面に出し、周知を図った方がよい。		・ステップルームの活用がさらに進むよう、周知の方法も工夫してほしい。また、人材探しには、地域のネットワークも活用してほしい。		・ペーパーレス化とともに、発信の頻度を増やし、学校の様子を伝えてほしい。	
	・子どもの特性に応じた適切な支援を行うためには、保護者の理解と協力が不可欠である。関係機関との連携をさらに深めてほしい。		・地域も学校を支え、盛り上げるよう取り組んでいる。そのことを教職員に伝えてほしい。		・子どもたちに全力で向き合うためにも、プライベートの時間は大切にしてほしい。	

人材育成・組織運営

自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・職層ごとの役割を明確にし、進行管理を意識付けた結果、分掌主任の意識が高まるとともに、若手教員の業務理解が深まった。 ・特定の教職員への業務集中についてはいまだ課題が残った。校務分掌組織を抜本的に見直し、業務量なども考慮した分担を計画する。 ・昇任1年次の副校長について、業務内容を理解し、確実に処理する能力が身に付いた。保護者、地域、外部機関などとの連携も適切に行った。 ・教育研究員などの研修制度の活用、指導教諭の授業参観など、校外における研修にも積極的に参加して研鑽しようとする機運が高まった。
学校運営協議会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の入れ替わりによって、飛田給小学校のよさが失われていくことがないようにしてほしい。デジタル活用の推進について研究しているのならば、ICT活用が得意な教員が増えるとよい。 ・教員が研修で学ぶことは、子どもたちのためでもある。忙しいとは思いますが、研修の機会も大切にしてほしい。 ・地域行事にも積極的に参加し、地域を知ってほしい。

中期的な経営目標の達成状況

1	周りの人も、自分も大切にできる児童の育成	開校50周年の取組を通して、校風「ゆずりの心」を共有し、学年を超えた交流が深まった。
2	個に応じた学習指導の充実	「デジタルを活用したこれからの学び」推進地区実践校の研究を通して、児童が学習方法を自分で選択して進める授業に慣れてきた。
3	オリンピック・パラリンピックレガシーの継承	アスリート派遣事業などを計画的に実施することで、児童のスポーツ愛好、障害者理解の心情が育っている。
4	特別支援教育の充実	校内委員会が充実し、具体的な支援方法の共有、関係機関との連携などを迅速に行うことができるようになった。
5	安全・安心な学校づくりの推進	支援人材として近隣大学生が加わり、校内教育支援センター「ステップルーム」運営の充実が図られた。
6	学校運営協議会と地域学校協働本部の連携の充実	協議会で話題となり、協働本部の支援で実現した事業が複数あった。

次年度の重点課題

- ・学校運営協議会の活動の充実（教職員との連携 保護者、地域への周知 など）
- ・不登校対策の充実（ステップルームの活動日、時間の拡大 支援人材、予算の確保 個に応じた学習支援 など）
- ・タブレット端末のさらなる活用（授業での活用 家庭学習、家庭との連絡での活用 情報モラル教育）
- ・校内通級教室の運営体制の充実（担当教員の特別支援教育に関する専門性の向上 巡回校との連携強化 など）
- ・体育館大規模改修に伴う教育課程の見直し（体育科学習指導、学校行事 など）